

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—グレーがいいことも—

NO. 105



最近、目の前の出来事に○か×か、白か黒かをはっきりさせる風潮になっていると感じます。成功者には大いなる称賛が降り注ぎます。いつもは関心のない人達もその称賛の輪に加わります。何か好ましくないことをした人は、今はとことん追求されます。時には、その人のすべてを否定するような強烈なバッシングも、平気で飛び交います。匿名世論は怖いのです。もちろん、人が傷ついてしまうことや、周囲が動揺してしまうことは、避けなければなりません。でも、内容によっては“コンディションが悪かったのかな”“何か追い込まれたことがあったのかな”と、柔らかく接する人もいて、いいんじゃないかなと思うこともあります。“いいかげん”を上手に使いたいものです。

支援が必要な子ども達の中には、時折、一般的には『不適切』と言われるような行動が見え隠れする子がいます。日常生活の中では、夜眠らなかつたり、大きな声を出したり、ひとりで出かけたり。関わりの中では、お友達のものを入れてしまったり、叩いたり噛んだりしてしまうことも。「いつ終わるのか」「またあるかも」と考えるだけでもブルーです。日常生活の中の出来事は、家族の体力気力を消耗させてしまいます。お友達との関わりの中の出来事は、相手がいることですので、謝罪の言葉を交わしあっても、お互いのストレスは高まります。子どもの傍にいた大人も、申し訳ない気持ちが尾を引き、次の緊張感にもつながります。でも、しなければならぬ対応です。

これからお話することは理屈です。きれいごとです。でもそれを、ご家族や関係者と一緒に愚直に進めていきます。キーワードは『無くしていくのではなく、減らしていく』ことです。なぜなら、子どもにとっては、悪気があってその行為をしているのではなく、発展途上中のハプニングなので、その行動だけを閉じ込めてしまうと、変わろうとしている芽も摘んでしまうことになりかねません。

まず、「なぜ？」を深く探っていきます。なぜそうするのか、何を伝えたかったのか、子どもの一日、一週間の様子や、置かれている環境の変化を細かく振り返っていきます。寝ないとか、大きな声を出すとか、自分の中で落ち着くのではなく、外に気持ちが向いているのなら、それは成長しているメッセージかもしれません。湧き上がってくるパワーがあっても発揮する手段や場がないのかもしれません。寝かせるときの対策や、大きな声を抑えるための対応は考えつつ、遊びや活動内容に目を向けて、具体的に関わり方を変えて、風の向きを変えていきます。人に手が出てしまう等、適切ではない関わりがその子にある場合、その時の関わり方も考えつつ、その子が上手に過ごしている他の場面をみていきます。多くの場合、その子の遊びや人への関心が高まり、距離が近くなっているのに、関わり的手段が伴っていないことが多いです。改めて、大人が仲立ちになって、好きな遊びを繰り返し、OKをたくさん出すようにしたり、心地よいキャッチボールを経験したり、同じ物を持ち合い楽しむ場面を作ったり、柔らかく過ごせる場面作りを、ひたすら続けていきます。

いろいろな人がいろいろな立場で、その出来事に向き合っていきます。私達は、その子の目線でものごとを見続けます。そして、そのご家族を、とことん応援し続けます。

×をグレーに見ていくことで、育つこと、変わることであるんです。(R7. 2) K

